

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 2  
No.366

### 今年から毎朝20分間清掃再開

「再開のきっかけは、残念ながらお客様の評価でした。「最近のイナテックさんは何か方向性が違ってきているみたい。現場が荒れている。」というアドバイスをいただきました。その原因を考えていたら、次の記事を見つけました。

#### やっつけないコストカット

(ダスキン ビズより)

「これでいいか…」とりあえずのコストカットは失敗する！

清掃の時間や回数を減らす、使いにくい道具を使い続ける、清掃道具をメンテナンスしないなど、「とりあえずこれでいいか…」の対応はNG。

一時的にコストは下がるものの、美観を維持できないため、後々まとめて清掃しなければならず大きな負担になったり、お客様や従業員が不快な気持ちになったり…。

さらに、使いにくい道具や効率の悪い方法での清掃で、作業する従業員のストレスにつながるなど、さまざまな面でマイナスになります。人件費が上がり続ける状況の中、短い時間で少ない手間でキレイを維持するなら、「汚さない・汚れを取るための効率的な道具」「作業方法」「清掃にかかる時間」の3つの軸で見直すことが重要です。

NGコストカットで低下する3つのこと

- 1 美観が悪くなる。
- 2 効率が低下する。
- 3 従業員のモチベーションが低くなる。

まさにイナテックに当てはまりました。コロナ禍の中、非常事態だったこともあり、清掃時間を短縮し生産の時間にしたり、汚れた中で技能員の方々に仕事をお願いしたこと、誠に申し訳なく思っております。

そして今は、もう一度「おそうじ」をイナテックの企業理念の中での位置づけも考えながら、イナテック社員の人たちが腹落ちしていただけるよう、企業理念の整理をいたしております。

つまりイナテックの再出発と言ってもいいと思っております。今後は二度とブレないように考え方を浸透させ、皆でイナテック最上位概念である『社員の質的生活向上・家族の幸福』を実現すべく努力いたしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

#### もうやめよう「ルールですから」

イナテックの職場には色々な標準書(ex. 外観検査要領書、作業標準書、作業手順書、安全規則、○○規定、○○基準書等々)が

存在します。それは、本当に守れる、守りやすい標準書でしょうか。

管理者やスタッフが責任のがれのためのものになっていませんか。皆さんは責任のがれというより、真剣にまじめにやった結果が非常に項目の多い、複雑なルールになってしまっているのだと思っています。

もう一度、今一度、『このルールは何のため？』『このルールの目的は？』『このルールの狙いは？』『これらを考えてみませんか。』

この2月の厳冬の中、感染症予防のために窓をフルオープンにしています。それを聞いてみると「ルール」ですからという答え。

そのフルオープンは、科学的に本当にそこまですればならないのでしょうか。窓を一日中開けエアコン暖房をフル回転させる。この換気の目的は「感染予防」なのです。

当社の窓枠を見て下さい。「すき間」だらけですよ。充分ではないですか。それよりも、「手洗い」や「うがい」をこまめにやった方が予防になると思いますが、いかがでしょうか。そして皆さんの各ご家庭で窓をフルオープンにして換気してみえる方はいますか。

もう一度考えてみて下さい。その「ルールは何の目的」ですか。それを考えればもつとシンプルな答えが返ってくると思います。

そしてオペレーターの方々や技能員の方々、スタッフの方々ももつと楽にいい仕事ができるのではないかと私は考えています。これからは『このルールは何のため』『このルールの目的は何か』を合言葉にして、ルールを軽くしましょう。お願いします。

### 懸命

(稲盛和夫「考え方」より)

人は追い込まれ、

もがき苦しんでいるなかでも、

直撃を態度で物事にぶつかっていくことで、

ふだんでは考えられないような力を

発揮することができます。

苦難に挫けず、前向きに必死に働いたことで、今日の自分があることに気づき、一生懸命働くことの大切さを痛感します。

人は追い込まれ、もがき苦しんでいるなかでも、真摯な態度で物事にぶつかっていくことで、ふだんでは考えられないような力を発揮することができます。

そして、その努力の向こうには、自分でも想像できないような、素晴らしい未来が広がっているのです。

現在のイナテックグループは、まさに「苦難の連続」なのです。「一社依存経営体質が危険だ」ということは10年も20年も前より語ってきた事ですが、人間(私自身)は弱い者です。実行できなかったのは事実です。

今、「100年に一度の大変革期」に差し掛かって本腰を入れるようになったわけです。(日経新聞 昭和99年の反撃)今でもギリギリ遅くはないと考えています。ここで大切なのが『真摯な態度』です。

「真摯」とは、真面目さ・誠実さ・熱心さです。

営業2部を始めとし、我がグループ社員全員がそれに向けて「懸命」に努力し結果を出すしかないと考えています。「ピンチはチャンス」なのです。人はピンチが来ないと出来な

い者かもしれません。今でも遅くはない！皆で生き残りを賭けた勝負に出ようではありませんか。

よっしゃ！やろう、やってみせよう！

### 菜根譚後集

九七

幽人清事總在自適。故酒以不勸爲歡、棋以不爭爲勝、笛以無腔爲適、琴以無絃爲高、會以不期約爲真率、客以不迎送爲坦夷。若一牽文泥迹、便落塵世苦海矣。

山人の風流ごとは、すべてわが心にかない悠々自適するのが大切である。そこで、酒はむり強いしない方が飲を尽くし、碁はけんか碁でなく争わない方がすぐれていて、笛は音律のない方がよく、琴は無絃の方が高尚で、会合は日時を約束しない方が飾りけがなく、お客は送り迎えしない方が気楽である。そうではなくて、もし世間並みに形式にこだわり慣例にとらわれ出すと、それこそ、せっかくの風流も浮世の苦海に逆もどりしてしまふ。